令和８年４月１日

令和８年度　東京都立杉並高等学校　学校経営計画

東京都立杉並高等学校
校長　上　村　礼　子

＜建学の精神＞

「自主」：自分で考え正しく判断して行う
「素直」：謙虚な心をもって知識を身に付ける
「気魄」：強い意志で物事をなしとげる

＜スクールミッション＞

「自主、素直、気魄」を建学の精神とし、国際理解教育や体系的なキャリア教育、自主的、主体的な特別活動を通じて、豊かな国際感覚を備え、より高い目標に向かって挑戦し、多様性を尊重して共生社会の中で積極的に社会的役割を果たす人材を育成する。

＜グラデュエーション・ポリシー＞

（１）国際社会に生きる日本人として、幅広い教養や多様な文化への理解、豊かな感性と知識を身に付けている。
（２）思考力・判断力・表現力を駆使して、未知なるものや目前の課題に立ち向かい、解決しようとする態度を備えている。
（３）様々なことに主体的・能動的に取り組み、他者と協働して社会に貢献しようとする一段高い志をもっている。

＜カリキュラム・ポリシー＞

（１）必修科目・必修選択科目により、基本的な知識・技能を身に付け、学びに向かう力を育てる。
（２）学校設定科目・自由選択科目により、応用力や思考力・判断力・表現力を高める。
（３）各教科において言語活動を活性化し、コミュニケーション能力と表現力の向上を図る。
（４）総合的な探究の時間を活用し、未知なるものへの探求心や課題解決のための行動力を育成する。

＜アドミッション・ポリシー＞

（１）各教科の学習に意欲的に取り組み、総合的な探究の時間にも積極的に参加する姿勢が備わっている。
（２）学校行事や生徒会活動に主体的・能動的に取り組み、貢献した経験を有している。
（３）部活動を３年間継続してやり遂げ、入学後も学習と両立しながら、継続して活動する意欲をもっている。

Ⅰ　目指す学校

○豊かな国際感覚を備えたグローバル人材を育成する学校

国際社会に生きる一員としての自覚と、グローバル化の進展の中で、柔軟な思考に基づいて、たくましく生き抜く人間を育成する。

○より高い目標に向かってチャレンジする学校

心身ともに健康な知力、体力を身に付け、未知なることを探究し新たな創造につながる力を備えて、自らの可能性を伸ばし、高い目標を目指して挑戦する人間を育てる。

○社会に期待される文武両道の名門校

学習や特別活動等、調和の取れた活動で得た経験を活かし、多様性を尊重し、共生社会の中で積極的に社会的役割を果たせる人間を育てる。

Ⅱ　中期的目標と方策

自らの強みを見いだし、主体的に自らの人生を切り拓いていく人材の育成を目標とし、生徒の進路希望を実現させる。

＜目　標＞

1　備えるべき真の学力を育て、社会の有為な形成者を育成する。
2　高い志を育み、生徒の自己実現を図る。
3　部活動や学校行事等、特別活動の活性化を図る。
4　規範意識を身に付けて基本的生活習慣を確立する。
5　各種指定校の取り組みから特色ある学校づくりを進める。
6　組織的な広報活動を一層充実させる。
7　国際理解教育を通じて、豊かな国際感覚を備えたグローバルな人材を育成する。

＜方　策＞

1　教科指導力向上及び授業改善を継続して行うとともに、これからの育成すべき生徒像を明確にした教育課程編成と新たな大学入試制度を見据えた教科指導内容の充実を図る。
2　３年間を見据えたキャリア教育全体計画を推進し、継続したデータ分析及び定点観測によるきめ細かな進路指導を実施し、生徒の第一志望の進路実現を図る。
3　部活動や行事等の特別活動において、友人、上級生、下級生との協調から連帯感や学校への帰属意識を醸成するとともに、努力することの大切さや達成感を体感させる。
4　あらゆる機会を通して、社会人として備えるべき常識やマナー、規範意識、人権意識を身に付けさせるとともに、教育相談機能を充実させ、きめの細かい生徒理解を進める。
5　都教育委員会からの各種指定校の取り組みを有機的、横断的に組み合わせて学校の特色化を進めて、生徒、保護者、地域からの信頼を高める。
6　保護者・地域及び中学校等に対して、本校の特色ある教育活動を積極的に情報発信し、募集対策の充実を図る。
7　海外修学旅行、海外語学研修旅行、次世代リーダー育成道場への生徒派遣、留学生の受け入れ等をとおして、豊かな国際感覚を備えたグローバルな人材を育成する。

Ⅲ　今年度の取組目標と方策

１ 学習指導

＜目　標＞

「Tokyo Metropolitan Global Education Network School for English Education（ GE-NET EE 指定校）」の指定を受けた英語科はもちろん、全教員の教科指導力を向上させるとともに、生徒の主体的な自学自習の習慣を確立させる。現行学習指導要領によるカリキュラム及び観点別評価の成果を検証し、育成すべき生徒像を明確にして教育課程の適正な実施に努める。

＜方　策＞

（１）各教科の基礎・基本の確実な定着を図るとともに、知識・技能、思考力・判断力・表現力、課題解決能力、探究力、創造力を育成し、生徒が自ら学ぶ自己調整力を高める授業を推進する。

（２）授業時間の確保に努め、デジタルを有効に活用し、生徒の主体性を育む活気ある授業を実践する。

（３）国語、数学、英語等での少人数指導や、習熟度別少人数編成授業を効果的に実施し、生徒の学力を向上させる。

（４）生徒の探究的な学びを支援するとともに、すべての教科で言語活動を重視し、読解力、教科横断的な思考力を養う。

（５）キャリア教育全体計画を踏まえて「総合的な探究の時間」を充実させ、大学入試総合型選抜に対応できる力を育成する。

（６）英検等の技能検定への取り組みを充実させ、生徒の語学力向上を図る。

（７）英語４技能の能力の向上を目指した、生徒の自己調整的な学び方を身に付ける学習活動を展開する。デジタルを有効に活用したオンライン英会話、学習支援アプリ等を導入する。JET とのティーム・ティーチングを効果的に活用する。

（８）始業前及び放課後の補習、週末課題の提出、長期休業日中の講習を計画的、組織的に実施し、生徒の自学自習の習慣づけを指導する。

（９）教科主任会議、授業力向上のための校内研修を定期的に実施し、教科指導の課題を共有し、解決に向けて検討する。再度教科主任会で成果検証を行うＰＤＣＡサイクルを実践する。

(10) ルーブリックを活用した管理職の授業観察を積極的に実施し、教員にフィードバックを行い、生徒の学力向上と授業満足度を高める授業改善を推進する。

(11) 教員相互の授業見学や、授業改善のための校内研修を充実させる。

(12) 指導教諭の授業視聴、他校の授業見学、予備校等における教員研修に全教員が１人１回以上取り組む。

２ 進路指導

＜目　標＞

３年生が予備校や塾へ通っている率が５０％以上と進学指導、受験指導が塾・予備校に依存している状態がある中、塾や予備校に頼らない進学指導の実践を目指す。３年間の見通しをもったキャリア教育・進路指導を、進路指導部を中心に組織的に実施する。高い志をもった生徒の進路実現を目指し、社会に有為な人材を育成する。

＜方　策＞

（１）進路指導部を中心に全教員体制で、組織的な指導体制を確立する。生徒が高い目標を設定する取り組みを展開する。

（２）個別面談、三者面談を年間計画に基づいて、各学年で実施する。生徒一人一人に個別最適な進路指導を行う。キャリア・パスポートを活用した継続性のある面談を実施する。保護者を

対象とした進路情報を提供する機会を設定する。
（３）年間計画に基づいて模擬試験と模試結果分析会等を実施する。教科主任会議と連携し、模試分析会等での課題を共有し、課題の解決に向けて教科会で検討、し授業改善につなげる。
（４）新卒業生による合格体験座談会や同窓会の協力を得たキャリアガイダンス講座の他、大学訪問等を実施し、希望進路実現に向けた生徒の内発的動機付けを促す。
（５）進路指導部主導により教科と連携して、長期休業日中の講習を計画的、組織的に実施する。夏季休業中の講習を３～５日間を１タームとして、全学年の生徒を対象に開講する。
（６）自習室及び進路指導室を、大学生サポーター等を活用し、生徒が活用しやすい環境に改善する。
（７）３年間を見据えたキャリア教育、主権者教育、消費者教育を、公民としての権利と義務を自覚させ、１８歳成年制度を視野に入れて行う。
（８）生徒の主体的な学びを実願するために、学習方法、進路の決定方法、受験情報、知識を伝授し、受験への心構えと意識を醸成し、動機付けを行う。
（９）課題論文、および小論文作成指導を、進路部を中心とした組織的な委員会で推進することにより、記述力の向上に向けて取り組む。

３ 生活指導

＜目 標＞

健全な市民を育成するために、１８歳成年制度を視野に入れて、組織的な指導体制で、責任ある社会人として生徒の規範意識を涵養する。

＜方 策＞

（１）学校全体で、挨拶、時間厳守等社会人として通用するマナー、ルールを身に付けさせるとともにスマートフォン及びＳＮＳを適切に利用する生活習慣と態度を育成する。
（２）守るべき規律・規範及び特別指導の指導計画を基に、生活指導を行う。
（３）校内美化を徹底し、教育環境整備に取り組む。
（４）安全教育として自転車の法令遵守、交通ルール・マナー指導を徹底するとともに、ヘルメットの着用を生活指導部、生徒会、部活動部長会等が組織的に働きかけ、着用率を向上させる。
（５）体罰アンケート、いじめアンケート、学校評価アンケートを効果的に活用してきめ細かい生徒理解に努め、教育相談機能を充実させる。
（６）自他の存在及び生命を尊重する態度を育成して、ＳＯＳの出し方に関する教育、自殺予防対策の教育を進める。スクールカウンセラー、外部機関と連携し組織的に体罰根絶、自尊感情の醸成、いじめの未然防止、早期発見・対応を行う。
（７）男女平等の精神に基づいて、豊かな男女の人間関係を築けるようにする。
（８）公民としての権利と義務を自覚させ、主権者教育、消費者教育、租税教育等を充実させるとともに、防災教育の充実を図り、「自助」「共助」の精神を養う。
（９）体育の授業及び部活動を軸に、生徒の基礎体力向上を図る。
（10）個人情報の保護、人権の保護の立場から生徒の指導を行うことを教職員に徹底することにより、教職員一人一人が職責を十分に自覚し、服務事故の根絶を目指す。

４ 特別活動･部活動

＜目 標＞

学校行事、部活動、海外交流等の特別活動を活性化させ、成功体験の機会を得させるとともに、「海外学校間交流推進校」として国際理解教育を推進しグローバルな人材を育成する。

＜方 策＞

（１）体育祭、文化祭、合唱祭等の学校行事への取り組みを通じて各種のリーダーを育成し、自主

的、主体的な活動を推進する。
（２）生徒会活動において、学校見学会、学校説明会、生徒会予算決定・執行、ボランティア活動、制服改善の話し合い等を実施し、生徒のリーダーとして活発で主体的な取組がなされるよう支援していく。
（３）部活動指導員を活用して部活動の充実を図るとともに、体罰や行き過ぎた指導のない部活動運営を目指す。生徒の自主性や計画性を高める場とし、部活動加入率を向上させる。
（４）部活動顧問と保護者間との連携を図り、相互の情報交流を促進するため、定期的に各部活動で保護者会を実施する。
（５）メディアリテラシー教育としてのセーフティ教室、薬物乱用防止、交通安全教室等の指導を通して、心身共に健全な生徒を育成する。
（６）文化・スポーツ等特別推薦の充実に向けた組織的体制を構築し、運動部、文化部共に部活動をさらに活性化させ、生徒の自主性・主体性、リーダーシップを育成する。
（７）「海外学校間交流推進校」として豊かな国際感覚を養い、グローバルな人材を育成する。
（８）ニュージーランド及び台湾等の姉妹校交流等、大使館訪問・大使による講演会、海外修学旅行、海外語学研修旅行、次世代リーダー育成道場、留学生の受け入れ、東京グローバルフレンドシッププログラム等、幅広く国際理解教育の場を設定する。

５ 募集･広報活動

＜目 標＞

都教育委員会の各種指定校の取り組みを活用し、学校の特色を積極的に情報発信して募集対策につなげる。

＜方 策＞

（１）ホームページの更新を月１０回以上行い、日常の教育活動をタイムリーに発信する。
（２）近隣地域との交流を積極的に行い、本校の特色ある教育活動をＰＲする。
（３）学校案内の内容を改編し、来年度の効果的な生徒募集に生かす。
（４）学校内外における学校説明会、学校見学会、授業公開及び塾対象説明会を計画的かつ組織的に実施する。また、生徒が主体となり学校のＰＲをする説明会や部活動見学会、学校見学会、及び学校行事の公開を積極的に実施し、本校を「受検したくなる」中学生を増やす。
（５）広報活動の充実を目指し、都教委による学校紹介動画、「まなびゅー」をフルに活用し、教育活動や部活動の様子を配信する。

６ 学校経営･組織体制

＜目 標＞

教育施策や、都教育委員会からの各種指定校の取組を活用して、教職員の経営参画意識と協働意識を醸成する。さらに、グローバル人材の育成を目指し、国際理解教育と海外学校間連携事業の推進を学校全体で組織的に取り組んでいく。

＜方 策＞

（１）教育目標及び学校経営計画実現のために、５つの分掌の他、４つのプロジェクトチーム（学力向上、探究学習、国際理解教育推進、制服検討）を立ち上げ学校の課題解決を図る。
（２）台湾への修学旅行、ニュージーランドへの語学研修旅行の立案、渉外、引率、海外姉妹校交流の企画、外国語（英語科）教員等派遣研修への参加等を通じ、教職員の国際感覚を培う。
（３）「海外学校間交流推進校」として、ニュージーランド等への語学研修旅行を実施し、生徒を海外に派遣し、日本の伝統・文化等を海外に発信するための指導力を養う。
（４）「Tokyo Metropolitan Global Education Network School for English Education（ GE-NET EE 指定校）」として TGG（東京グローバルゲートウェイ）、台湾修学旅行、イングリッシュ

キャンプ、ニュージーランド語学研修、次世代リーダー育成道場、海外留学、留学生の受け入れ、大使館との交流等を通じて、組織的にグローバル人材の育成を推進する。英語科を中心とした英語検定試験の指導、オンライン英会話を活用して、英語学習の動機付けを強化する。

（５）国際理解教育に関して、海外大学進学説明会、異文化理解に関する講演会、オンラインによる海外交流活動、海外リーダーシップ研修等を企画、推進していく。

（６）計画的なＯＪＴ、校内研修（授業、探究、英語教育）を実施し、教員の人材育成能力及び専門性の向上を図る。

（７）企画調整会議、職員会議、その他の会議や校務において、ＤＸ化及びペーパーレス化等による業務効率化を図る。

（８）経営企画室の業務進行の合理化を推進し、経営参画型の経営企画室を維持、充実させる。

（９）国や都の「働き方改革」の推進を受け、休日の部活動指導員の活用や業務 DX 化により、教職員の勤務の軽減を図る。

(10) 学校閉庁日の設定、在宅勤務の実施、男性の育児休暇取得の推進などにより、教職員のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。

Ⅳ　数値目標

	令和８年度の数値目標項目	令和８年度目標	令和７年度値	令和６年度値
①	生徒の学校満足度の肯定回答率	８５％	８０．０％	７７．８％
②	生徒の授業満足度の肯定回答率	８５％	８０％	７８％
③	生徒の進路指導満足度の肯定回答率	８０％	７９％	７８％
④	教育相談に関する委員会の開催数	１０回	４回	３回
⑤	海外への生徒派遣・進学予定者数	３５０名	３３９名	３４７名
⑥	実用英語検定２級合格者数	６５名	６５名	２８名
⑦	生徒の部活動に対する肯定回答率	９０％	９２％	９０％
⑧	１クラス一日の遅刻者	１．０名	１．５名	１．８名
⑨	卒業生の人数に対する進路決定率	９０％	８９．７％	８９．８％
⑩	進学に向けた講習の開講数	４５講座	４０講座	３５講座
⑪	早慶上理ＧＭＡＲＣＨ現役合格者数	３５名	３０名	２２名
⑫	学校ホームページ年更新回数	３５０回	３１０回	２９３回
⑬	教職員の中学校への訪問回数	１００回	８９回	１回
⑭	入学者選抜　推薦応募倍率	２．５０倍	３．６１倍	２．４５倍
⑮	入学者選抜　学力一次応募倍率	１．５０倍	１．４３倍	１．２８倍